学校名	甲州市立塩山北中学校	教科名	数学　国語
研究主題	主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造		

１．研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究内容

① 新学習指導要領の趣旨と本校の課題に関する研究

② 授業実践に向けた研究

③ 各教科等における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研究

④ 日常的な実践研究

（２）具体的な研究活動

① 新学習指導要領の趣旨と本校の課題に関する研究

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する学習会の実施

・「主体的・対話的で深い学び」の視点について，文部科学省からの資料をもとに毎年確認を行った。

○本校の課題の分析

・本校の課題についてマトリックス法やＫＰＴ法を用いて分析を行い，課題を明らかにした上で研究に臨んだ。

② 授業実践に向けた研究

○「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫についての研究

・「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのグループワークの仕組み方，教具の使い方や本時のねらいを達成するための効果的な発問について研究を行った。

○「指導と評価の一体化」を目指した評価，年間指導計画作成の研究

・新学習指導要領全面実施に向け，評価の観点が現行の４観点から３観点になることを見据え，評価のタイミングや方法，評価の出し方，カリキュラム・マネジメントを意識した年間指導計画の作成について研究を行った。

③ 各教科等における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研究

○「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研究

・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために，毎年２本の研究授業を柱に研究を行った。また，職員間で定期的に授業公開を行い，感想やアドバイスを伝え合った。

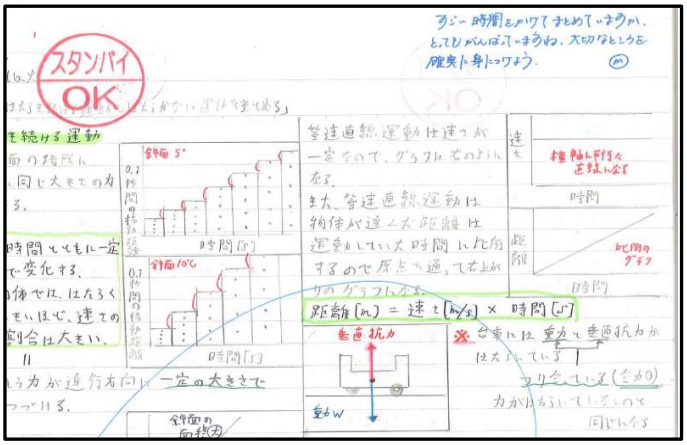
○授業研究会の方法の工夫

・事前や授業後の研究会でワークショップを取り入れ，全職員で協議を行った。

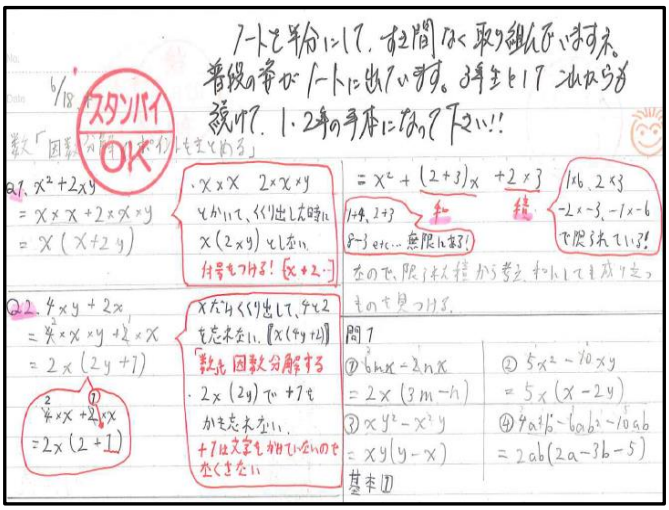
④ 日常的な実践研究

○学習活動の振り返りを次につなげる工夫

・家庭学習と授業との効果的な結びつきを目指し，帰りの会の前１０分間を「家庭学習スタンバイ」として日課表に位置づけ，その日の授業を振り返る中で家庭で学習する内容を自己決定し，家庭学習に取り掛かるきっかけとした。



・生徒が家庭で学習した内容を授業の冒頭で紹介し，授業の導入につなげる取組を行った。
・家庭学習ノートを担任だけではなく全職員が交代でチェックし，コメントを記入する取組を行った。



○ワークショップ型校内研究会の実践
・毎回の校内研究会でワークショップを取り入れ，全職員が主体的に研究を行った。
　例えば，「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた本時の授業について」のテーマに沿って，「主体的な学習」，「対話的な学習」，「深い学び」の３観点について，「良かった点」，「課題点・質問」をお互いに出し合い，それを研究主任等がマトリックスとして分析的にまとめ共有した。ここで共有したことをそれぞれの日々の授業改善に生かすように取り組んだ。

（３）コロナ禍における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組み
・今まで通りのグループワークは困難であったので，「自己との対話」を意識した授業展開を行った。例えば同じ質問を単元の最初と後半で行い，どのように自分の考えが変容したか，なぜそのように変わったかを考えさせた。
・「家庭学習スタンバイ」の取組を充実させ，自分に何が必要かを主体的に考えさせた。

２．研究の成果と課題（○成果　●課題）

○「主体的・対話的で深い学び」の視点について毎年確認をすることで，職員が同じ歩調で研究に対して向き合い，研究内容を理解し，共有することができた。
○思考ツールを効果的に使用し，本校の課題を分析することができた。
○教科に関係なく，全職員が主体的に研究会に参加をし，積極的に意見を交換できるようになった。
○ワークショップを効果的に用いて，様々な評価の方法を研究したことで，指導と評価の一体化についてより深く考えることができた。
○授業実践を通して，「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのグループワークの形態，教具の使い方，本時のねらいを達成するための効果的な発問について，深く研究できた。
○生徒が論理的に自分の考えを発表したり，ワークシートに記入したりできるようになった。
○「家庭学習スタンバイ」の取組を通して，家庭で学習をする時間が増加するとともに家庭学習ノートの質の向上が見られた。教師側も，生徒のノートを確認することで授業において不足している点を確認することができた。
○授業の中で，「家庭学習スタンバイ」につながるような声掛けを意識するようになり，家庭学習との連携が深まった。
○実践を重ねるごとに質・量ともに向上するとともに，学年が上がるにつれ中身・内容の充実度が増している。その結果が全国学調に繋がっている。
●カリキュラム・マネジメントの研究も継続して行っていきたい。
●ＩＣＴの効果的な活用についてさらに研究する必要がある。
●評価については，新学習指導要領が全面実施されてから気付くこともあるので，研究を継続していく。
●授業で書いたノートを写すだけの生徒もいるので，自分なりにまとめたり整理したりするようにさせたい。

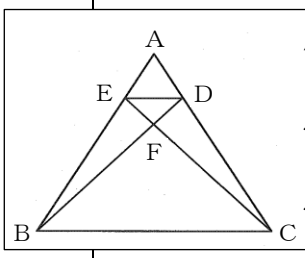
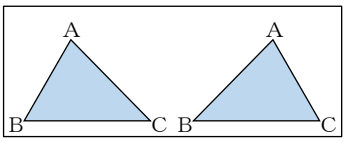
３．研究授業の概要

【数学】　「証明のすすめ方」（２年　平行と合同）

（１）本時の目標　・与えられた条件から仮定となることがらを見いだす活動を通して，証明を完成させるための必要な仮定を設定し，証明の筋道を示すことができる。

（２）本時の評価規準　・複数の三角形から合同な２つの三角形を見いだし，必要な仮定を設定し，図形の性質を証明することができる。【思考・判断・表現】

（３）展開

	学習活動 発問（◇）／予想される生徒の反応（Ｓ）	教師の支援	備考
導入（１０）	既習事項を確認する。（主） **１．問題を把握する。** ◇この図から結論「ＥＣ＝ＤＢ」を証明するには，どうすればよいか。 ◇たくさんある三角形のなかで，合同になりそうな三角形はどれか。 ◇与えられた条件で証明できそうか。 Ｓ「できない。」 Ｓ「仮定が必要。」 めあてを知る。 **必要な仮定を設定し，証明の筋道を考えよう**	・生徒の自主学習ノートを利用しながらホワイトボードで確認する。  △ＡＢＣで，ＡＣとＡＢ上にそれぞれ点Ｄ，点Ｅをとる。 ＥＣとＤＢの交点を点Ｆとする。 ・「証明には仮定が必要」という言葉を引き出すようにする。 ・「めあて」の提示をする。 ・ワークシートの配布	
展開１（１５）	**２．証明の筋道の立て方を全員で共有する。** ［例］△ＥＢＣと△ＤＣＢ ①　図をかく  ②　結論→ＥＣ＝ＤＢ ③　図から分かること→ＢＣは共通 ④　仮定の設定 ＥＢ＝ＤＣ，∠ＥＢＣ＝∠ＤＣＢ 合同条件→２組の辺とその間の角が～ ⑤　△ＥＢＣと△ＤＣＢは合同→△ＥＢＣ≡△ＤＣＢ ⑥　合同な図形の対応する辺は等しいのでＥＣ＝ＤＢ	・教師側で証明の筋道の例を示す。	
展開２（２０）	**３．自分で問題を解いてみる。** ◇合同な２つの三角形を決めて，仮定を設定し，証明の筋道を実際に考えてみよう。 **４．グループで共有する。** ◇グループで考えを説明してみよう。また，自分の証明の筋道と違う点があったら，それが正しいかも合わせて確認しよう。（対）（深） Ｓ「仮定によって証明の筋道が変わる。」 ・全体で答え合わせをする。	・まずは個人で考えさせる。 ・ワークシートに沿って記入させる。 ・自力解決が困難な生徒には机間巡視しながらヒントを与える。	【思・判・表】ワークシート
まとめ（５）	**５．本時のまとめをする。** まとめ　　証明の筋道は次の①～⑤のように考える。 ① 仮定と結論を確認する ② 三角形を選ぶ ③ 図形の性質を明らかにする ④ 仮定と性質から合同条件を決める ⑤ 結論を示す **６．振り返りシートの記入。**		

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

生徒の姿

教師の手立て・改善点等

【見通しと振り返り（目的のある課題設定）】

○黒板横に拡大提示したノートのまとめを見ながら既習事項を確認して振り返りができた。
○ワークシートに「合同条件を意識して仮定を設定することができた」と記し，課題に対して意欲的に取り組むことができた。

・生徒自身のノートのまとめを利用しながら既習事項の確認をする。

・振り返りを利用しながら，生徒が興味を示す課題を設定する。

△グループ活動や証明の筋道を振り返ることが十分にはできなかった。

・時間配分を考え，簡潔なわかりやすい指示が大切である。

【対話の工夫】

○対話をすることで，自分と違う考えを知り，仮定や合同条件が変わってくることに気づくことができた。

・話合い活動を組み込むことで，生徒が個で考えた意見を説明し合い，多様な考えに触れさせる。
・グループは教師の方で決めておき，円滑に話合いが進むようにしておく必要がある。

【生徒の深い学び】

○多くの生徒が，自分の意見や考えをしっかりともち，他者と対話をすることで新たな疑問やその解答を考えることができた。数学が苦手な生徒も他者の意見を参考に，答えを導くことが出来た。

・ホワイトボードを２つ用意し，黒板の左側に「既習事項」，右側に「授業のまとめ」を設置することで，「既習事項→本時の授業（黒板）→まとめ→家庭学習→次回の授業」というサイクルを意識する。

○授業中の疑問や類似の問題に取り組もうという姿勢が身についている。

・「家庭学習スタンバイ」につながる声かけや授業のまとめ方が生徒の学習意欲の向上や理解の深まりにつながっている。

【国 語】

（１）単元名　「扇の的」を群読しよう～登場人物の言動の意味などについて考え，作品を解釈する～
（２）教材名　「扇の的」―「平家物語」から　（光村図書　第２学年）
（３）本時の目標　　登場人物の言動の意味などについて考え，内容を解釈することができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ(1)イ
（４）本時の評価規準　「読むこと」において，登場人物の言動の意味などについて考え，内容を解釈している。　［思考・判断・表現］
（５）本時の展開（第５時間目/全６時間）

過程	学習内容と学習活動 ☆主な発問	指導上の留意点 ［　］主体的・対話的で深い学び	評価規準 （評価方法）
導入 (10)	１　前時の確認をする。 ２　本時のめあてを設定する めあて 場面にふさわしい群読をつくろう	・「朗読の工夫」について掲示する。 ※声の大きさ，話す速さ，間，声質 ・全員で朗読し，リズム等を捉えさせる。 ［主］好奇心を持って取り組む。	
展開 (35)	３　自分の朗読を振り返って，自分なりの朗読に修正を加える。 ☆　自分の解釈・表現を見つめ直そう。 ４　各自の朗読を発表し合い，話し合って，場面にふさわしい群読を考える。 ☆　グループとしてはどう解釈・表現するか，意見交換をして決めていこう。 ５　話し合って作った群読を練習し，グループとしての工夫について共通理解を図る。	・学習の流れを確認する。 ・自分とは異なる工夫をしているところに特に注目し，どう朗読するのがよいか，理由と合わせて考えさせる。 ・仲間の考えを聞いて，よいところを取り入れるように伝える。 ・読み取った理解と表現の工夫がふさわしいものになっているかという規準で判断させる。 ［対］仲間との対話を通して学びを深める。 ・iPad で録画し，実際に群読したものを見て，修正するようにアドバイスをする。	［思考・判断・表現］ （ワークシート観察） 自分の意見をもち，話合いの中で意見交換を行い，場面設定や登場人物の心情について理解を深めているかの確認。
まとめ (5)	６　本時のまとめをする。 ７　次回は発表会をすることを伝える。	・自分自身の変容を捉えさせる。 ［深］深めた学びを確認する。	

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

生徒の姿

教師の手立て・改善点等

【見通しと振り返り（目標に迫る課題設定）】

○生徒たちは，本文の読みを深めるという意識を持ち，本文の前後のつながりを踏まえて読もうと努めていた。

・「登場人物の言動の意味などを読み取る」という目標に迫るために，「群読」という言語活動を設定した。課題に取り組む必然性を作ることによって，主体的に読み取るよう意識づけを行った。

・同じ場面について考え，対話することで生徒同士の読みを深めるために，「群読」の場面を１つにしぼった。

△話合いに時間をかけすぎてしまい，後半の群読練習をしながら読みを振り返ることが十分にできなかった。

・時間配分を考えた，簡潔なわかりやすい指示が大切である。

【対話の工夫】

○生徒たちが，登場人物の心情や情景描写などへの各自の読みをもとに，積極的に意見交換を行っていた。

・全教科において，個人で教材と向き合い自分の考えをもった上で他の生徒と対話して考えを深める場面を必ず一度は設定し，取り組んでいる。

・ワークシートに個人の読みを記入し，その交換に「ミーティングボード」を利用し，グループで共有した。
・話し合う際，建設的な話合いになるよう，本文の前後のつながりを考えるように視点を与えた。

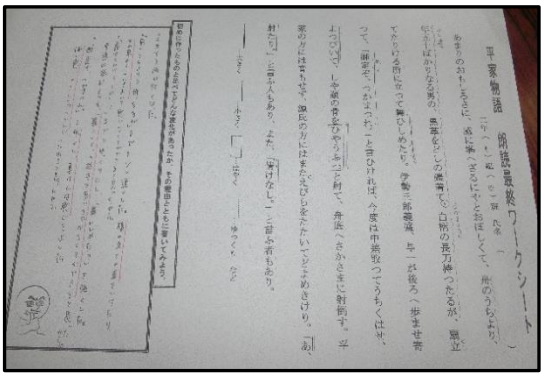
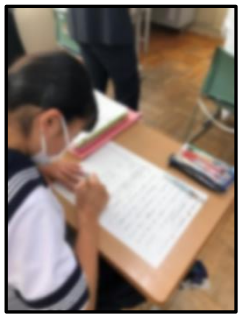
△自分の読みの主張が中心で，話合いがまとまらないグループもあった。

・話合いの際，他者の考えを「聞き入れる」ことへの意識づけが足りなかった。

・一番はじめに作成した「朗読ワークシート」と，話合いを経て最終的に作成した「朗読ワークシート」を比較させ，生徒自身の読みの変化を捉えられるようにした。
・ワークシートに記入する場面が多く，効果的な活用を考える必要がある。

【生徒の深い学び】

○多くの生徒が，話合いを受けて，もう一度本文を見つめ直し，自分なりの読みを深めた理由を書くことができていた。



・学習評価を考える際に，評価場面をしぼり，どの場面で，どのように評価するか，生徒の姿をイメージしながら具体的に構想することが大切である。